秋と春、大学の学期始めの項、ウィーンでは隠れ
たベストセラーが出回る。ウィーン大学の講義目録
がそれだ。町の書店でも発売されるため、聴講手続
きのために買って行く学生に限らず、一般市民も簡
単に手に入れることができる。この講義目録には、
ウィーン大学のすべての学部。学科にわたって、そ
の講義の題日、曜日、時間、講義室、担当の教授講
師名が載せられている。部厚い講義目録に目を通せ
ば、大学の関係者でなくとも、教授陣の陣容ならび
にその授業の概要を、つかむことができるわけであ
る。
それによれば、ウィーン大学は次の 8つの学部か
ら成る。カトリック神学部、プロテスタント神学部、
法学部、社会・経済学部、医学部、基礎・総合科学
部、精神科学部、数理・ 自然科学部。ヨーロッパの
古い大学を形造って来た 4つの学部、神学部。法学
部。医学部・哲学部の伝統は、法学部が 2つの学部
に、哲学部が 3つの学部に分化してはいるものの、
今だに受け継がれていることがわかる。なお、ウィ
ーンにはさらに単科大学として、工科大学、農科大
学、経済大学、獣医大学、音楽大学、美術大学、工
芸美術大学などがある。私立大学はない。
かつての哲学部の流れをくむ 3つの学部について、
その学科構成を見ると、次のようになっている。ま
ず、基礎・総合科学部は、哲学、政治学、心理学、
教育学、養護教育学、社会学、出版・ コミュニケー
ション学ミ演劇学、民族学、地理学、体育学といっ
た学科から成る。精神科学部に属す学科としては、
先史学、考古学、古銭学、歴史学、古代美術史学、
中世・ 近世。近代美術史学、音楽学、言語学、フィ
ンランド・ハンガリー学、ドイツ・ 北欧語学文学、
比較文学、古典語学文学、ビザンティン・近代ギリ
シャ学、英米語学文学、ロマンス語学文学、スラヴ
語学文学、エジプト学、アフリカ学、ユダヤ学、オ
リエント語学文学、インド・古代イラン学、チベッ
ト学。仏教学、中国学、日本学・朝鮮学、民俗学、
翻訳者・ 通訳養成学がある。数理・ 自然科学部に属
すのは、科学基礎論、論理学、数学、天文学、物理
学、気象学。地球物理学、化学、地学、人類学、植
物学、動物学、家政栄養学、薬学といった学科であ
る。この他にラテン語や外国人のためのドイツ語な
ども、各学部共通の講義として開講されている。日
本の大学にはあまり見られない学科もいくつかある
が、基本的にはオーソドックスな学科編成である。
最も大きな違いは、日本の大学に比べて、地域研究
がヨーロヽシパに偏らず、全世界にわたって進められ
ている点であろうか。学際的領域の講義は、 2つな
いし3つの学科にわたる講義として開講されている。
またそうでなくとも、主専攻の他に一つ副専攻を取
ることが義務づけられているので、学生の聴講の仕
方も自ずから学際的になるようだ。
甲庭に向する回廊
これらの学科の研究室は、大学本部の建物やその
裏手にある新校舎を中心に、ウィーンの旧市内に散
らばっている。たとえば、日本の国文学科に当るド
イツ・ 北欧語学文学の研究室は、新校舎の他に、旧
市内の国立オペラ劇場の近くの建物の 3階にもある。
2階に演劇博物館、中庭に国立の劇場の切符前売所
を擁す満酒な建物である。日の暮れが足早に訪れる
冬の学期、この研究室のゼミナール室からは、映画
「第二の男」の舞台となった、ホテルや喫茶店のネ
オンがともり始めるのも見えたものだった。
演劇学の研究室はかつての王宮の一角にある。オ
ペレッタに関する音楽学科との共通講義は、その研
究室の奥まった一室で行なわれた。ウィーン大学で
は、一般の市民が講義を聴きに来ることが珍しくな
い。この講義にも、若い学生達にまじって、年輩の
聴講者の姿がかなり見受けられた。その中の 1人、
講義の際中時折言葉をさしはさむ老人は、こと、数
々のオペレッタ上演についての知識にかけては、授
業を担当する年下の先生の知識を上回るようであり、
またそれが自慢のようでもあった。学期が改まる頃、
その先生が講師から教授に昇進したという記事が、
詳しい解説入りで新聞の文化欄に載った。ウィーン
では、大学の教授が新たに 1人誕生したということ
は、市民の間でも話題の種になるらしい。
市内に散在する研究室は、散在したまま今のとこ
ろその姿を変えそうにない。ウィーン大学で、もし
統合移転が行なわれるとすれば、すでにその時、大
学はそれまでとは異なった社会的役割を果たすよう
になっているのみならず、大学と市民の関係も変質
-19-

していることであろう。 (ドイツ語・ 助教授)
学部の記録
一人事異 ‐動 ―
<採用> . 総合科学部助教授よりで
す111111子で1董董lill Ю
“
餞願邦(彰
‐ 冥骰 』浚ヘ
 | ‐濱谷 1清裕 (自然凛境研究教務補佐
|1 員) | <配置換>
19 15 終保幸正 (自然環境研究島手) (教官の部)
11.115 不野雅郎 (比較文化研究 1手‐) 10 1 田中真造 (ドイッ語教授)
(事務の、 部) . 京都教育大学教育学部教
|■ ‐111渡辺正一 (保健体育事務補佐員) 授より
11 1 佐々木久仁子 (事務の部)
(環境科学コース事務補 7.1 迫井義昭(用度係文部事務官)
佐員) 用度係配管工より
<昇任> <辞職>
(教官の部) (事務の部)
10 1 実森正子 (人間行動研究助手) 6.311 山本正和 (保健体育事務補佐員)
千葉大学文学部講師へ 8.31 山下裕子 (環境科学コース事務補
村上 誠 (日本研究教授) 佐員)
総合科学部助教授より 111 14 安田良理子 (学務第一係事務補佐
清水廣一郎 (ヨーロッパ研究教授) 員)
総合科学部助教授より
宗岡洋二郎 (人間行動研究教授) <改性>
総合科学部助教授より n 17 若井和子 (英語事務補佐員)
福居和彦 (ドイツ語教授) 旧姓岡本
一出張及び研修 ―
永見 勇 (英語助教授) : 根平邦人 (自然環境研究助教授)
渡航先アメリカ合衆国 渡航先オーストラリア
目的フルブライト招へい講師として、プリン ロ的第13回国際植物学会議出席並びに資料
ストン本学丞び同神学校において、講義 ‐ 収集
並びに宗教倫翼学て宗教社会学の研究の 期間 56818～ 569.5
ため : 近藤勝彦 (自然環境研究講師)
期間うo8:1～ 57615 渡航先オーストラリア
安藤 =昭 (人間行動研究助手) ・ 目的第13回国際植物学会議出席並びに資料
渡航朱ァィッヵ合衆国 ‐. 収集
目1的 :場のィォィ・水輸送に関する共同研究 期間聴 818～ 5695
期■間・ ・阻 &16γ 57,18.13 内山敬康(情報行動庭礎研究教授)
-20-
け
― ― ―

渡航先アメリカ合衆国
目的日米セミナー "蛋白質分子の自己形成"
に出席並びにスタンフォード大学及びカ
リフォルニア大学において共同研究
期間 56.810～ 56.8311
前田 渡 (情報行動基礎研究教授)
渡航先アメリカ合衆国
目的アメリカ合衆国イリノイ大学のシステム
自動診断研究グループにおいてシステム
解析と診断に関する研究を行うため
期間 56721～ 56.12.3tl
山下和男 (自然環境研究助教授)
渡航先アメリカ合衆国
目的日本学術振興会日米科学技術協力事業
「光合成による太陽エネルギーの転換」
による共同研究実施のため
期間 567.15～ 56.11.15
小島健一 (基礎科学研究助手)
渡航先フランス
目的希土類化合物に於る磁性と超伝導の共存
機構の研究
期間 56812～57817
嶋陸奥彦 (アジア研究助教授)
渡航先大韓民国
目的韓国農村の社会人類学的研究のため
期間 56.7.20～ 56105
宇田川真行 (基礎科学研究助手)
渡航先アメリカ合衆国
目的第 5回強誘電体国際会議出席のため
期間 56.82～ 56.8.28
栃木省二 (自然環境研究教授)
渡航先中華人民共和国
目的日本と中国の砂防技術の研究交流のため
期間 56.83～56823
荒木博之 (英語教授)
渡航先アメリカ合衆国
目的プリンストン大学主催の「 日本文学の理
論と実際」会議出席のため
期間 568.15～ 56.823
安田喜憲 (自然環境研究助手)
渡航先大韓民国
目的韓国のアカマツ林の比較生態史的研究の
ため
期間詭 721～ 567.31
米重文樹 (ロシア語助教授)
渡航先ソビェト連邦
目的プーシキン・ ロシア語研究所にてロシア
語教師研修ゼミナール参加
期間強 829～ 57.6.∞
小林文男 (アジア研究教授)
渡航先中華人民共和国
目的中国経済の現状調査
期間 56.915～ 56.928
田代嘉宏 (基礎科学研究教授)
渡航先大韓民国
目的韓国数学会及び各大学において微分幾何
学の共同研究並びに研究情報交換のため
期間
“
106～
“
1017
陣崎克博 (英米研究教授)
渡航先アメリカ合衆国
目的アメリカ合衆国テネシー州メンフィスに
おいて開催される第 8回米国アメリカ学
会太飽勤吸びコロンビア大学において文
献調査
期間 56.1028～ 56.■.5 ‐
-21-

可
' 〈編集
.思
=だ
通り白占に自然|と生きる。このためには打
算というものを排除せねばなるましヽ。損得ぬき、我
が心の命ずるままに。 (井上亮二) であ"という間に19号が出来、くい"と言う前に
20号が出来ちゃった。私は今回も何もしませんでし
た。深く皮替してぉります、ハイ。 (隠岐幸代)
時間がたつのは、はやいものです。楽しい時もつ
まらん時も、長さは一緒ですね工。今回はひどく働
きました。しみじみ感じます。 (桐木淳二)
何もしないうちに 2つも『 飛翔 』ができち■らた。
ごめんなさい。今度からがんばりま―す。
(高上佳子)
『 飛翔 』第20号。僕が書いたのはこの後記のみし
次号での活躍を誓うと共に、記事を書いてくれた、
後記 〉
今現在の私はまさに「音楽評論家」の部類なので
はないでしょうか。 (大原高志)
やっとできた。いくつかつぶれた
I(?)(つぶし
た。……)企画もあったけど …・・.′
軟弱路線だけど、まだ当分はガンバルぞ一〃
. (雲井司)
バイトとM耐別の2本立て。勉強の方は当分おルス。
専属カメラマンでがんばちそます6 (廣谷義明)
20号です。やぅと今年中に出すことが出来ました。
目次を見てもおわかりの様に、今号はかなリバラ
エティに富んだ内容となっています。
特に、外国人の先生方のお話は、日頃種々の理由
から、直接うかがうことが少い (あるいはほとんど
ない)だけに、読者の皆様にとっても興味深かった
のではないでしょうか。
しかし、記事の間□を広げすぎた為1つ 1つに対
する奥行きが不足したのではないかtと反省してい
ます。
最後になりましたが、
"号
へ原稿をお寄せいただ
いた方々どうもありがとうございました。紙面を通
してお礼申し上げます。 (松浦豊)
他の委員に感謝。
つかれました。
(竹下斉)
(戸田恵子)
「学祭、学祭」で追われた十月半ば、「がくさい
が、くさい」と言ったらおこられた。だからぼくの
編集後記は高貴です。 (橋本記二)
.二 .._∴ .… …::1 ‐ 1 1(山田順二)
自分の英語Iと
'杢ぞ首虐がなくなりました。何か言
おうと思っても言葉が出そ来ないのですから6
W
昭和 56年度
木本忠昭 (社会) 清水廣一郎 (地域)
伊東保 (外国語)櫃田倍之 (情報)
53生足立哲男 (社会)中上京治 (環境)
54生藤本桂子 (地域)
55生大原高志 (環境)岡田敏子 (社会)
乙武隆司 (環境)雲井司 (情報)
成田実香 (情報)廣谷義明 (社会)
松浦豊 (社会)
山上弘二 (社会)
井上亮一
桐木淳二
竹下斉
橋本記一
村中博
安永省二郎 (地域)
隠岐幸代
高上佳子
戸田友子
山田ll■ 二
山田精二
け
-22-